

ADVOCATE

Japanese Society of Health Promotion : JSHP

日本ヘルスプロモーション学会公式ホームページ <http://www.jsHP.net/>

5

第5号

日本ヘルスプロモーション学会
2005年2月1日発行
発行者 島内憲夫
編集者 吉岡康

学会事務局
〒270-1695
千葉県印旛郡印旛村
平賀学園台 1-1
0476-98-1118 (tel/fax)
jimukyoku@jsHP.net

* advocate「アドボケート」とは、ヘルスプロモーションに関するオタク憲章の中に書かれている3つのプロセスの第一番目「唱道」のことです。

巻頭言

災害時のヘルスプロモーション

個人個人の善意を被災者の幸せにつなげる仕組みづくり

常任理事 宮本 照嗣 (株)千葉ニュータウンセンター)



健康に関することは個人の行動に結びつく場合が多いため、ヘルスプロモーションでは、一人一人が感じ(見る、聞く、知る、感じる)考え、決め、行動することを、誘導、演出する機会が多く、市民参加によるまちづくりと同じような現れ方をします。

市民参加まちづくりは個人の発意が原動力です。平成7年、阪神大震災では述べ117万人のボランティアが徒歩で現地に入って被災者の支援を行い、平成9年、日本海で起きたタンカー事故では30万人のボランティアが厳冬の日本海で、一つ一つの石を磨いてまで重油の除去を行って自然を回復しました。



私は、10月23日の中越地震後、11月1日から6日まで、ボランティアとして山古志村の避難先である

長岡市と、死者が最も多かった川口町で、救援活動に携わってきました。長岡市では避難所の一角に子どもたちとともに「子どもの城」を作りまし

たが、これは子どもたちの遊びを出現させることで、子ども相互や大人とのふれあいが誘発されることを期待したものです。

川口町のボランティアセンターは、28日に開設したばかりで、運営方法などを走りながら整えている状態。ボランティアに仕事を割り当てるセクションは、連日明け方まで整理に追われていました。ボランティアは日ごとに倍増し、6日には1000人を超えました。センターは、関係方面との調整を行いつつ、押し寄せてくるボランティアを、希望や特技を配慮してニーズに割り当て、管理します。それと同時に、長期滞在が可能で運営参加を希望する人を探し、まだ運営の仕組みが固まらない中、スタッフとして促成し、交代のために次の人材を育て、日々の運営を乗り切らねばなりません。

ボランティアセンター一つをとっても、このようなノウハウが未確立であることに驚きましたが、ボランティアの安全確保、健康障害防止や、医療、福祉などに関する平常の組織体制との時期ごとの折り合いづけなど、整理すべき課題は山とあります。

ボランティア個人の意思を尊重し、善意を有効活用するための配慮が必要であり、それを可能とするノウハウの構築を図ろうと考えています。

.....
● 会員の皆さんからの 声 をお待ちしております

● ニュースレターADVOCATEは、会員相互の情報交換の場でもあります。「報告」「一言(意見)」「情報交換」「伝言板」等々・・・何でも結構です。封書または(できれば)電子メールで事務局までお送りください。お待ちしております!! (メールは、jimukyoku@jsHP.net まで。)

特集1

シドニー大学副学長で、日本ヘルスプロモーション学会の顧問でもあるドナルド・ナットビーム教授より、ご挨拶をいただきました。

顧問あいさつ



顧問 Donald Nutbeam
(シドニー大学教授)

私は何度も東京を訪れていますが、その度に日本人の文化や伝統に感心させられます。今年の初めにも日本を訪れ、築地市場を訪れる機会に恵まれました。

これは私にとってあらゆる感覚を刺激する素晴らしい経験となりました。海産物の色彩、市場のざわめき、海や新鮮な魚の香り、そして決して忘れることのできないお刺身の味。

市場を訪れたことは、(このような出来事だけでなく、)文化的な経験でもありました。魚は日本の伝統食の重要な一部分を形成し、魚市場においては極めて真剣な取引が行われています。魚は一定の原則に基づいて売買され、質は慎重に評価され価格が決定します。

食生活における魚の役割として考えられるのは、日本人の健康や寿命に重要な効果を持っているということです。遺伝子や環境の要因と並んで、健康的な食生活がある程度は影響し、日本は世界で最も高い平均余命を保っています。

東京に滞在している間、私は物質的環境の異常な精巧さに感心させられました。日本人は、現代的な欧米文化の象徴とも考えられるエンターテインメントや高級な電化製品を発明し、(意味づけ、)精錬してきました。言い換えれば、日本人、特に若者は多くの西洋文化・社会を受け入れてきたのです。それは、西洋の流行や服装だけでなく、ファーストフー

ドや体を動かすことの少ない生活習慣などをも含んでいるのです。

イギリスにおける3年間の生活を経てオーストラリアに戻り、国民、なかでも特に若者の間で広がる過体重や肥満の増加に驚かされました。スポーツ好きな国民性 というイメージにも関わらず、オーストラリアは、アメリカに続いて先進国で2番目に肥満レベルの高い国となっています。

この過体重の流行は糖尿病の増加率に現れていますが、心疾患の寄与因子としても明らかになっています。さらに、これは体を動かすことがなくなった人々のQOLにも影響を及ぼします。私の大学(シドニー大学)では、過体重や肥満に関するオーストラリアの主要なリサーチセンターを務めており、予防や体重管理の研究に積極的に取り組んでいます。当然のことながら、この取り組みでは、バランスの取れた食生活の達成と共に、予防や体重管理における身体的な活動の重要性が強調されています。

日本は、オーストラリアやアメリカのような過体重の流行をまだ経験していませんが、多くの若者によって取り入れられているライフスタイルの変化が、日本においても似たような結果を生み出しているのではないかと考えられる初期の兆候がみられます。これまで幸運にも日本が欧米の風潮を取り入れ影響を及ぼしてきたのと同じように、過去50年間において多くの日本人の健康生活と長寿を支えてきた食物や身体活動に関して、「新しい文化」と「維持すべき(文化的)伝統」の、両者の正しいバランスを見つけ出すことを私は期待しています。健康の促進や病気の予防に関わる私たちは、それを遂げるためにできることのすべてを行うべきであると思います。

お知らせ

会員の蝦名玲子さん(グローバルヘルスコミュニケーションズ)から皆さまにご案内です!

『保健業界のセレブと語る会』のご案内

2月から、東京で『保健業界のセレブと語る会』と称して、エビナとセレブのトークショーと懇親会(ネットワーキング)を中心とした会合を月1で開催しようと、今、計画をつめています。対象は保健活動をされている人々です。

「保健従事者の活躍の可能性を広げるためには(保健・公衆衛生分野の活動を一般の人たちにも魅力的に思ってもらえるようにアプローチするには)どうすれば良いのか」という視点で、有名な「先生」たちやメディアの人たちをお呼びして、いろいろな角度から学び合い、語り合い、親しくなれるような場をご提供しよう、と考えています。

今、皆さまに喜んでいただけるような内容を考えているところですので、ご意見・ご助言・ニーズなどをご教示いただくと大変嬉しいです。皆で楽しい会合をつくっていきましょう。

あと、ご興味のある方は、予め、その旨をエビナまでお知らせいただくと幸いです。参加者同士が仲良くなれるように、1会合の参加者は30名までとさせていただきます。どこまで宣伝したらよいか、その人数を把握するための目的です。その際は、氏名、所属、連絡先、会合に期待すること、希望する曜日と時間帯をご明記のうえ、メールにてご連絡くださいますよう、お願いいたします。毎月、皆さまとお会いして、可能性を探求し、また何か新しく素晴らしいものを生み出せていけることを楽しみにしております。

蝦名 玲子(グローバルヘルスコミュニケーションズ): E-Mail ebina@globalhealthcommunications.com

特集2 第2回学術大会・総会 盛會に終わる!

日本ヘルスプロモーション学会の第2回学術大会と平成16年度の通常総会が、去る11月20-21日に東京都新宿区内にある国立国際医療センターを会場として開催されました。当日は、約80名の参加者の皆さんが一堂に集まり、会を盛り上げてくださいました。

11月20日(一日目)

開会式の後すぐに『大会長講演』があり、第2回学術大会会長であり国立国際医療センターの建野正毅氏より「開発協力とヘルスプロモーション」と題して、ご自身が20年近くにわたり携わってこられた開発協力の具体的な内容を交えながら、開発途上国でのヘルスプロモーションの概念に基づく“まちづくりへの挑戦”をお話いただきました。その後、『特別講演』では、シドニー大学副学長であり、本学会顧問でもあるドナルド・ナットビーム先生から「ヘルスリテラシーと世界のヘルスプロモーション戦略」と題し、ヘルスプロモーションにおけるヘルスリテラシーの位置づけについてモデルを示しながらわかりやすくお話いただきました。お昼をはさんで午後からは、『シンポジウム』『個人・組織・コミュニティの潜在能力を高めよう - 諸外国のヘルスプロモーション活動の現場から -』をテーマに、5人のシンポジストより、それぞれの活動地域(ネパール、クロアチア、ホンジュラス、ボリビア、ブラジル)における取り組みについて話題提供がなされ、ヘルスプロモーション活動を効果的に進めるための条件や考え方について熱心な討議が行われました。初日プログラム終了後、会場となった国立国際医療センター地下食堂で懇親会が行われ、およそ50名の参加者たちが和やかに交流を深めました。



建野正毅氏による『大会長講演』(写真左)、ドナルド・ナットビーム氏による『特別講演』(写真右)、大変興味深い内容のお話で、会場の参加者からも活発な意見や質問が出されました。



『シンポジウム』では5人のシンポジストにより、各国でのヘルスプロモーション活動が紹介され、取り組みの成果や問題点について様々な角度から考察がなされました。

11月21日(二日目)

『第2回通常総会』が開催され、会員23名(委任状63名)の参加を得て予定の議案が全て滞りなく承認されました。その後、展示ブースによる『活動報告』が行われ、和やかな雰囲気のもとそれぞれの実践活動が共有され交流が活発に行われました。続いて行われた『シンポジウム』では「ヘルスプロモーションにおける“住民主体”について考えよう - 健康なまちづくりの実践から -」をテーマに、3人のシンポジストから実践報告があり、住民の主体的活動を生み出す要因やそれを支援する行政・専門家の姿勢、連携のあり方等について、会場を交えての活発な討議が行われました。



展示ブースによる『活動報告』では、それぞれの実践活動が楽しく紹介されました。



『シンポジウム』では、3人のシンポジストより実践報告がなされ、会場を交えての熱心な討議が行われました。

第2回学術大会・総会を通して、今後とも会員の皆様の活発的な参加を期待するとともに、3年目を迎えた学会活動の更なる発展を願ってやまない二日間となりました。会場まで足を運んでくださった参加者の皆さま、準備に携わってくださった方々、そして第1回学術大会に続き会場を提供してくださった国立国際医療センターに厚くお礼申し上げます。

また、今回参加できなかった皆さまには、次の機会に是非ご参集いただき、日頃の活動を振り返り、新たなエネルギーを育む貴重な時間を共に過ごしたいと思います。

第2回学術大会・総会 収支報告書

<収入の部>

項目	内容	金額	備考
参加費	会員（一般・懇親会あり）	186,000	6,000*31名
	会員（学生・懇親会あり）	45,000	5,000*9名
	非会員（懇親会あり）	21,000	7,000*3名
	会員（一般・懇親会なし）	38,000	2,000*19名
	会員（学生・懇親会なし）	2,000	1,000*2名
	非会員（懇親会なし）	36,000	3000*12名
	懇親会のみ	8,000	4000*2名
	抄録集のみ	4,000	1,000*4名
寄付		147,300	
学会支援		264,757	
収入合計		752,057	【A】

<支出の部>

項目	内容	金額	備考
謝礼	特別講演	200,000	
	シンポジスト	240,000	20,000*12名
消耗品	事務用品、演者飲用水等	10,137	
飲食費	コーヒー代	34,020	(振込手数料420)
	懇親会	103,050	
人件費	学生 STAFF	69,000	片日 5,000*1名 両日 8,000*8名
印刷代	垂れ幕作成費	47,300	
	ポスター・抄録作成費	48,550	
支出合計		752,057	【B】

収支合計【A】 - 【B】 = 0

年会費納入のお願い

平成 15 年度、16 年度の年会費を未納の方は、以下の口座へお振り込み下さいますようお願いいたします。

年会費の払込先（郵便振替）

00180-3-571047

日本ヘルスプロモーション学会

年会費

一般会員 3,000 円

学生会員 1,000 円

賛助会員 一口 10,000 円（一口以上）

* ご不明な点がございましたら、学会事務局までお問い合わせください。

学会事務局

Tel/Fax 0476-98-1118

E-mail jimukyoku@jshp.net

速報!

第3回学術大会・総会 期日・開催地決まる

日本ヘルスプロモーション学会の第3回学術大会・総会が、2005年11月19・20日、福岡県北九州市にある北九州国際会議場において開催されることが、12月の常任理事会において決定されました。学会の担当は九州歯科大学 中村修一先生です。

現在、プログラムの詳細についての議論が行われておりますが、今後、詳細が決まり次第、会員の皆さまへ最新情報をお届けいたします。ニューズレターADVOCATEをお見逃しなく！

第3回学術大会・総会

ご案内(第1報)

ヘルスプロモーションと健康づくり
- 原点を振り返って -

期日：平成17年11月19・20日（土・日）

会場：北九州国際会議場（福岡県北九州市）

プログラム（予定）：

大会長講演 中村 修一（九州歯科大学）

特別講演

ワークショップ

『ヘルスプロモーション理論と実践』（仮）

担当：島内 憲夫

ワークショップ

『健康なまちづくりの現場から

ヘルスプロモーションを考える』（仮）

担当：中村 譲治

通常総会

ポスターセッション

懇親会

その他

ポスターセッションの申し込み等、詳細が決まり次第、第2報をお伝えします。

<お詫び>

都合により、「ヘルスプロモーショングロッサリー」はお休みさせていただきます。ご了承下さい。また、「このキーワードを取り上げて欲しい!」「この言葉は理解が難しい...」「学会として、この言葉の定義を探ってきたい」など、会員の皆様のご要望、ご意見を聞かせて下さい。

編集後記 「そろそろ辛～い花粉の季節...」とお困りの方もいらっしゃると思います。昨年の猛暑の影響で今年のスギ花粉飛散量は昨年の10～30倍と予想されています。早めの対策を!!

さて、今号では昨年11月に開催された第2回学術大会・総会を特集で取り上げました。参加されたご意見・ご感想、第3回大会に期待すること...など何でも結構です。皆さまの声をぜひお寄せ下さい。

(田中)

©本印刷物の無断転載を禁じます。